

## 第4章 地域別の経済・産業の動向

### 1. 県全体からみた概況

#### (1) 地域別の総生産と分配所得

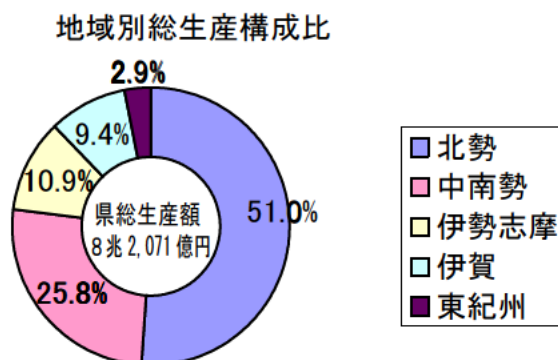
#### 【北勢地域だけで県内の5割を超える総生産】

(表18 地域別総生産(名目))

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州	県全体
地域別総生産(億円)	41,852	21,184	8,916	7,711	2,408	82,071
対前年度増減率	3.6%	▲1.2%	▲0.5%	4.8%	1.0%	1.9%
県全体に対する構成比	51.0%	25.8%	10.9%	9.4%	2.9%	100.0%

県内を「北勢、中勢、伊勢志摩、伊賀、東紀州」の5地域に分け、地域別の総生産をみると、北勢が4兆1,852億円で県内総生産の51.0%を占め、中南勢が2兆1,184億円で25.8%、伊勢志摩が8,916億円で10.9%、伊賀が7,711億円で4.8%、東紀州が2,408億円で1.0%となっており、北勢地域だけで県内総生産の過半を占めています。

資料：政策部「市町民経済計算」



(図38 地域別総生産構成比)

#### 【地域別市町一覧】

- 北勢地域：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
- 中南勢地域：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町
- 伊勢志摩地域：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町
- 伊賀地域：名張市、伊賀市
- 東紀州地域：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

※平成19年度末時点の市町区分で表示しています。

#### 【地域別分配所得においても北勢地域が過半を占める】

(表19 地域別分配所得)

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州	県全体
地域別分配所得(億円)	30,439	15,521	7,091	5,628	1,893	60,572
対前年度増減率	2.9%	1.1%	0.8%	1.6%	▲1.7%	1.9%
県全体に対する構成比	50.3%	25.6%	11.7%	9.3%	3.1%	100.0%

#### 《参考》

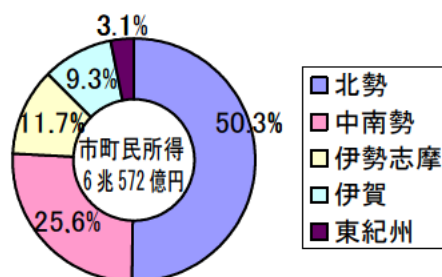
1人当たり分配所得(千円)	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州	県全体
	3,648	3,057	2,695	3,109	2,281	3,229
(県民所得=100)	113.0	94.7	83.5	96.3	70.6	100.0

(分配所得=雇用者報酬+財産所得+企業所得)

資料：政策部「市町民経済計算」

地域別の分配所得をみると、北勢が3兆439億円で県全体の50.3%を占め、中南勢が1兆5,521億円で25.6%、伊勢志摩が7,091億円で11.7%、伊賀が5,628億円で9.3%、東紀州が1,893億円で3.1%となっており、北勢地域だけで県全体の過半を占めています。

地域別分配所得構成比



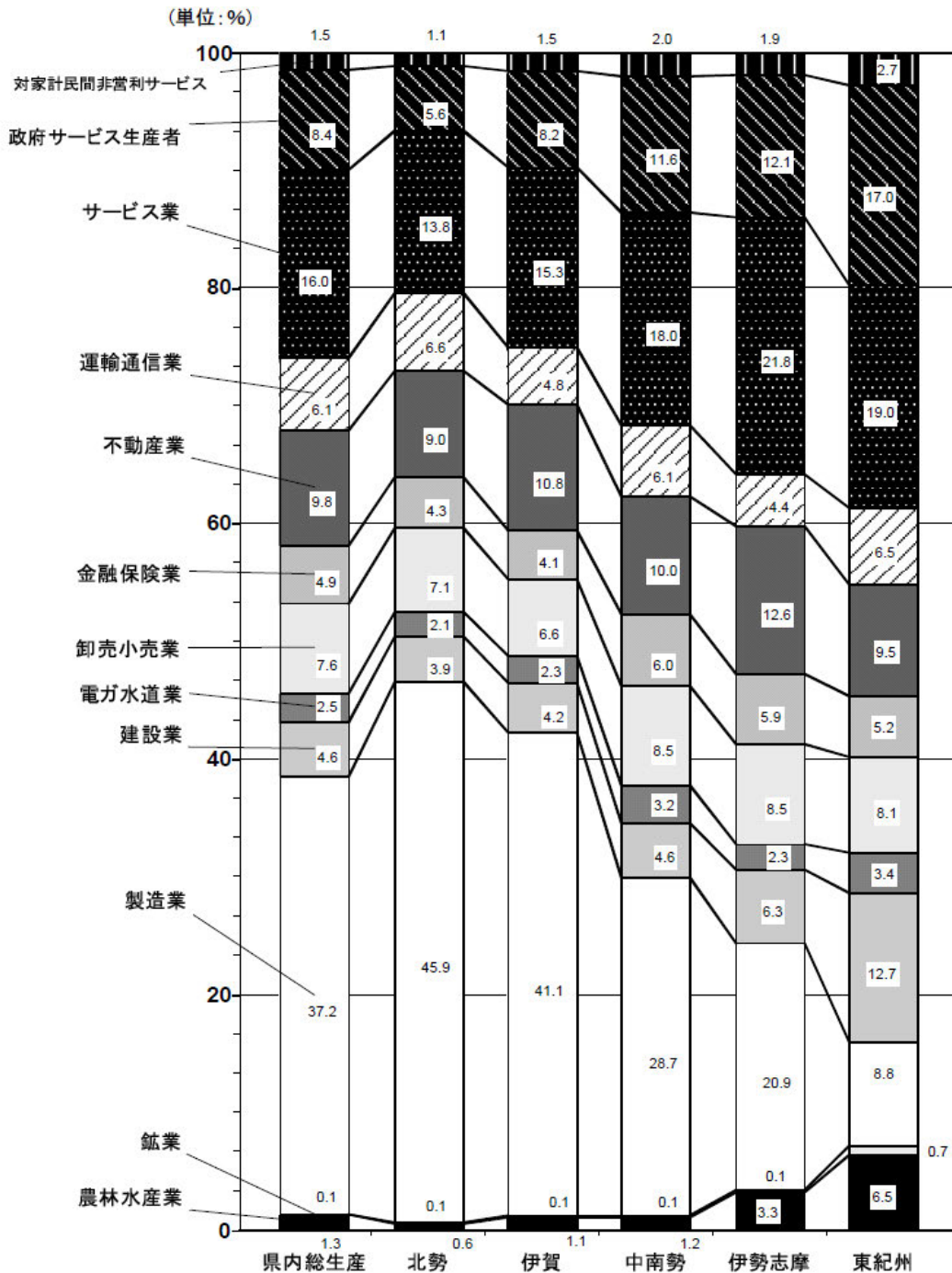
(図39 地域別分配所得構成比)

(2) 各地域の産業構造 (平成19年度総生産ベース)

○県全体

【製造業の割合が3割を超える】

県全体の産業構造を総生産ベースで見ると、製造業が37.2%で最も高く、続いてサービス業が16.0%、不動産業が9.8%、政府サービス生産者が8.4%で、この4つを合わせると、県全体の71.4%を占めています。



※産業構成比は、控除項目である「帰属利子」等を控除する前の合計値を100としていたため、三重県民経済計算結果の値とは異なります。

(図40 地域別・産業構成比) 資料: 政策部「市町民経済計算」

## ○北勢地域

### 【製造業の割合が5割近くを占める】

北勢地域の産業構造を総生産ベースで見ると、製造業が45.9%で最も高く、続いてサービス業が13.8%、不動産業が9.0%、卸売小売業が7.1%で、この4つを合わせると、北勢地域の75.8%と8割近くを占めています。

県全体と比べると、製造業の割合が高く、北勢地域ではものづくりが盛んなことが窺えます。

## ○中南勢地域

### 【製造業と政府サービス生産者に特徴】

中南勢地域の産業構造を総生産ベースで見ると、製造業が28.7%で最も高く、続いてサービス業が18.0%、政府サービス生産者が11.6%、不動産業が10.0%で、この4つを合わせると、中南勢地域の68.3%と7割近くを占めています。

県全体と比べると、政府サービス生産者の比率が高くなっています。

## ○伊勢志摩地域

### 【サービス業の割合が最も高い】

伊勢志摩地域の産業構造を総生産ベースで見ると、サービス業が21.8%と他地域より大きな割合を占めています。続いて製造業が20.9%、不動産業が12.6%、政府サービス生産者が12.1%で、この4つを合わせると、67.4%と7割近くを占めています。

県全体と比べると、サービス業の比率が高く、これは伊勢志摩地域において、観光産業が盛んなことが関係していると考えられます。

## ○伊賀地域

### 【製造業の割合が4割を超える】

伊賀地域の産業構造を総生産ベースで見ると、製造業が41.1%で最も高く、続いてサービス業が15.3%、不動産業が10.8%、政府サービス生産者が8.2%で、この4つを合わせると、伊賀地域の75.4%と8割近くを占めています。

県全体と比べると、北勢地域同様、製造業の比率が高く、伊賀地域ではものづくりが盛んなことが窺えます。

## ○東紀州地域

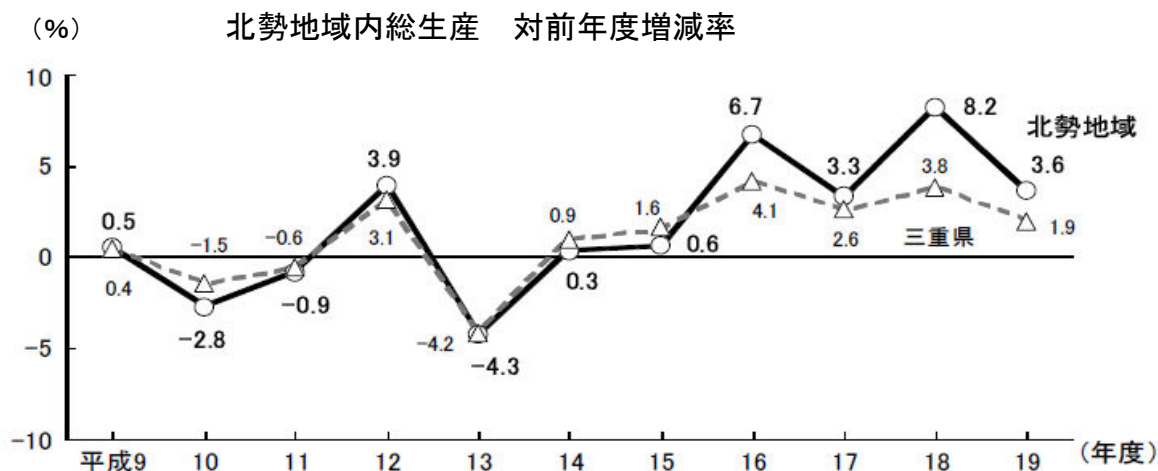
### 【製造業の割合が低い】

東紀州地域の産業構造を総生産ベースで見ると、サービス業が19.0%で最も高く、続いて、政府サービス生産者が17.0%、建設業が12.7%、不動産業が9.5%で、この4つを合わせると、東紀州地域の58.2%と6割近くを占めています。

県全体と比べると、製造業の比率が低く、相対的に他の産業の比率が高くなっていることが特徴です。

## 2. 北勢地域の概況

### 【県経済を牽引する北勢地域】

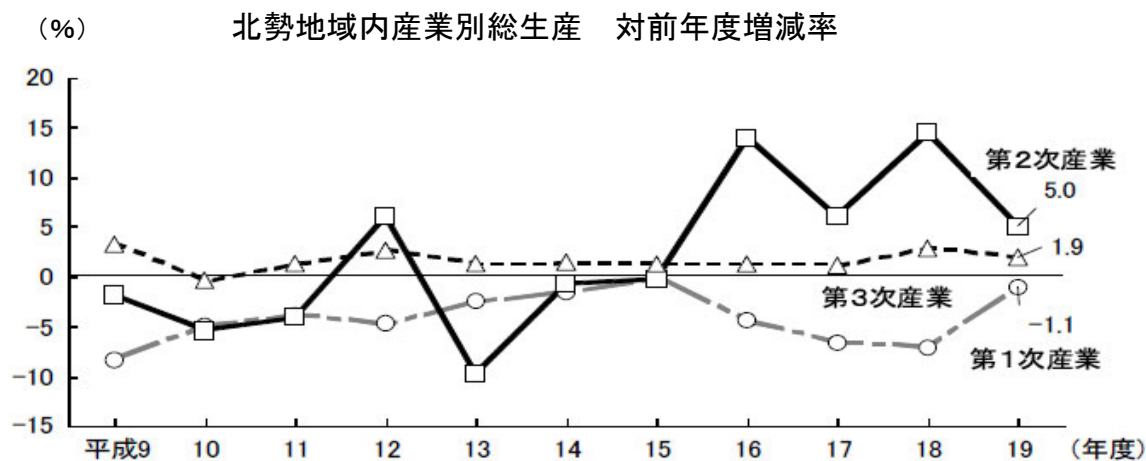


(図4-1 北勢地域の総生産増減率)

資料：政策部「市町民経済計算」

北勢地域における平成19年度の地域内総生産額は4兆1,852億円(対前年度比3.6%増)で、対前年度増加率は6年連続のプラスとなりました。

### 【高い製造業の総生産増加率】



(図4-2 北勢地域の産業別総生産の増減率)

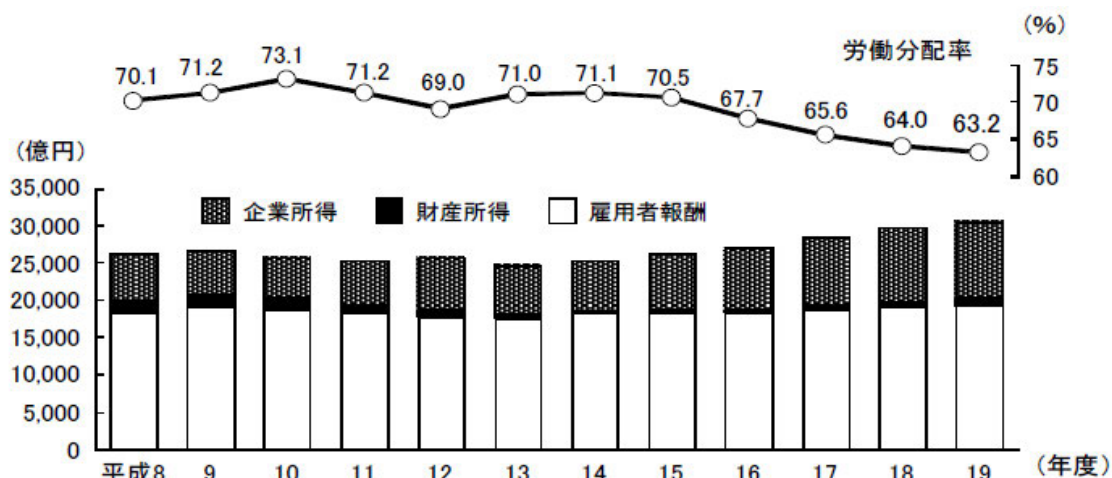
資料：政策部「市町民経済計算」

北勢地域における平成19年度の産業別総生産の増減率をみると、第1次産業が対前年度比1.1%減、第2次産業が同5.0%増、第3次産業が同1.9%増となり、第2次産業が最も高い伸びとなりました。

第1次産業では、農業が1.4%減、林業が17.8%減、水産業が12.7%増となりました。第2次産業では、製造業が8.5%増となりました。第3次産業では、電気・ガス・水道業が0.6%減、金融・保険業が3.3%減となったものの、卸売・小売業が2.5%増、不動産業が2.3%増、運輸・通信業が1.8%増、サービス業が3.0%増などとなりました。

【増加傾向にある市町民所得（分配）】

北勢地域における項目別市町民所得と労働分配率



(図4-3 北勢地域の項目別市町民所得と労働分配率) 資料：政策部「市町民経済計算」

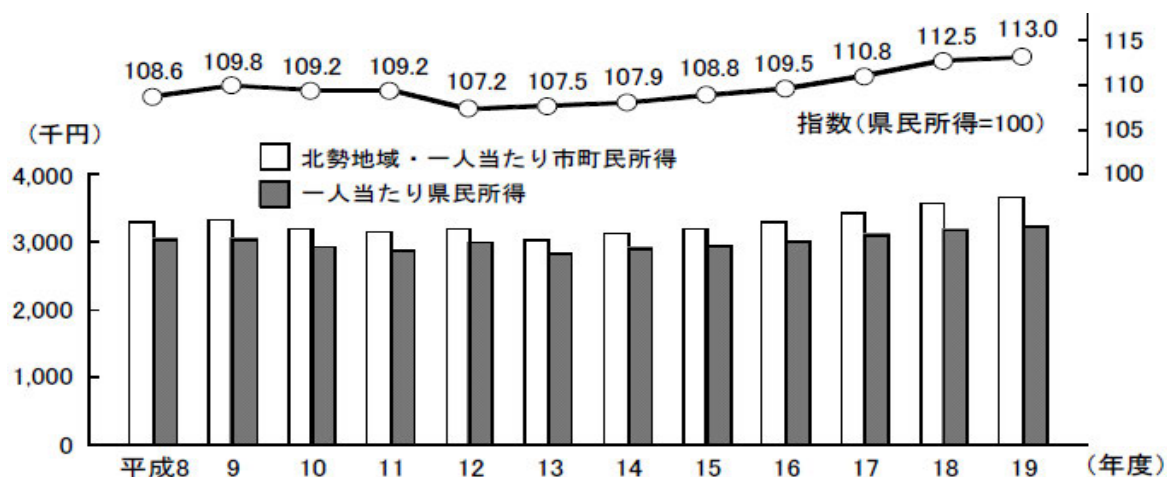
北勢地域における平成19年度の市町民所得は3兆439億円(対前年度比2.9%増)となりました。項目別にみると、雇用者報酬が同1.5%増、財産所得が同2.8%増、企業所得が5.8%増でした。

労働分配率は63.2%となり、前年度から0.8ポイントの低下となりました。

※労働分配率：企業の人件費負担の割合をいい、ここでは県(地域・市町村)民所得に占める雇用者報酬(賃金・給与所得、雇主の社会負担を含む)の割合で算出。

【県全体の水準を上回る一人当たり市町民所得（分配）】

北勢地域における一人当たり市町民所得

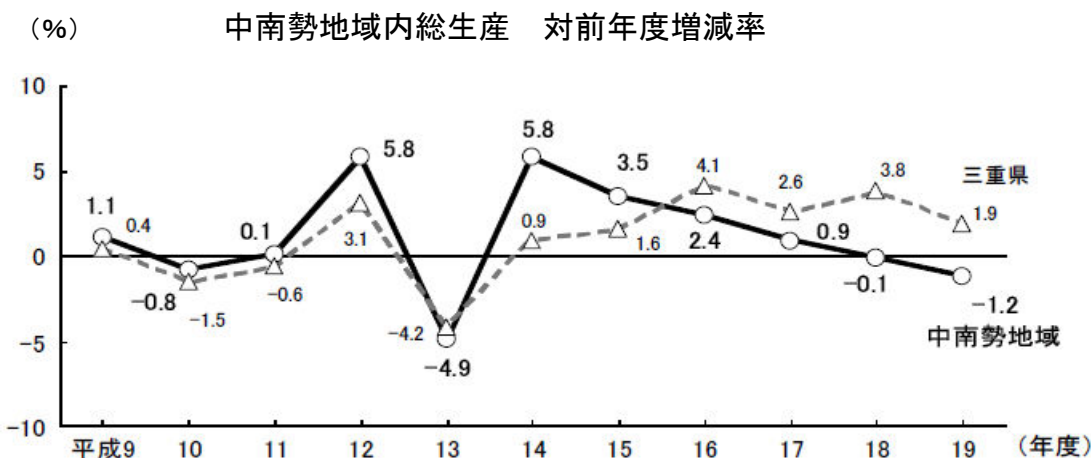


(図4-4 北勢地域の一人当たり市町民所得) 資料：政策部「市町民経済計算」

北勢地域の一人当たり市町民所得は3,648千円(対前年度比2.2%増)で、県民所得(3,229千円)を100とした値は113.0でした。地域別にみると、この地域が最も高く、常に県全体の水準を上回っています。

### 3. 中南勢地域の概況

#### 【下降基調にある地域経済】

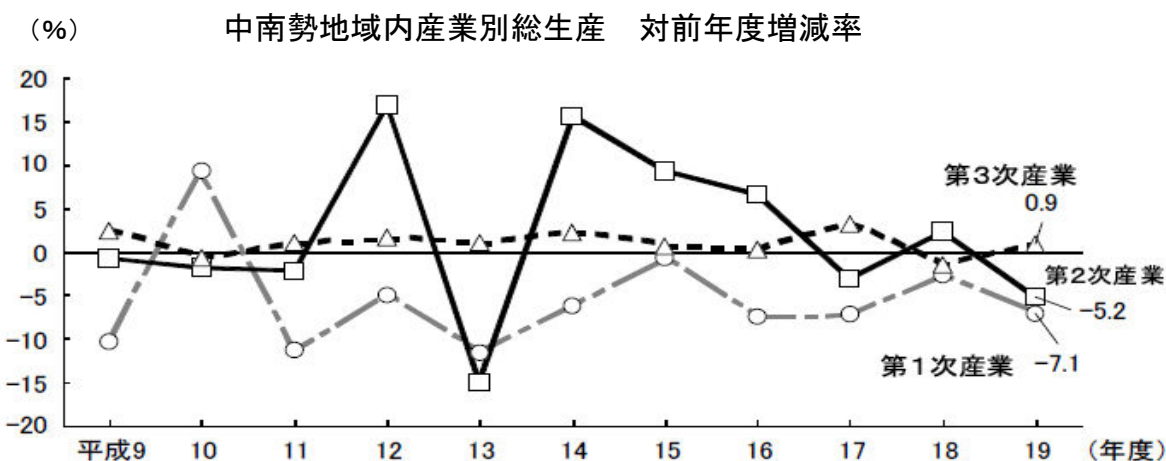


(図4-5 中南勢地域の総生産増減率)

資料：政策部「市町民経済計算」

中南勢地域における平成19年度の地域内総生産額は2兆1,184億円(対前年度比1.2%減)となり、対前年度増減率は2年連続でマイナスとなりました。

#### 【第2次産業は2年ぶりのマイナス】



(図4-6 中南勢地域の産業別総生産の増減率)

資料：政策部「市町民経済計算」

中南勢地域における平成19年度の産業別総生産の増減率をみると、第1次産業が対前年度比7.1%減、第2次産業が同5.2%減、第3次産業が同0.9%増となりました。

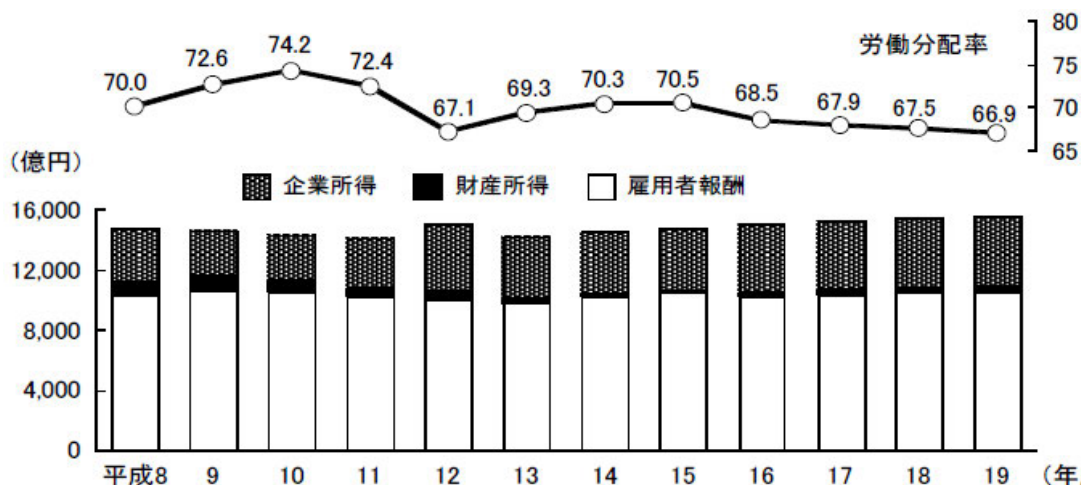
第1次産業では、農業が5.3%減、林業が20.1%減、水産業が20.7%増となりました。第2次産業では、鉱業が14.8%減、ウェイトの大きい製造業が4.8%減、建設業が7.8%減となりました。第3次産業では、電気・ガス・水道業が1.0%増、



不動産業が1.8%増、運輸・通信業が2.0%増、サービス業が1.9%増となったものの、卸売・小売業が0.3%減、金融・保険業が3.4%減などとなりました。

### 【増加傾向にある市町民所得（分配）】

中南勢地域における項目別市町民所得と労働分配率

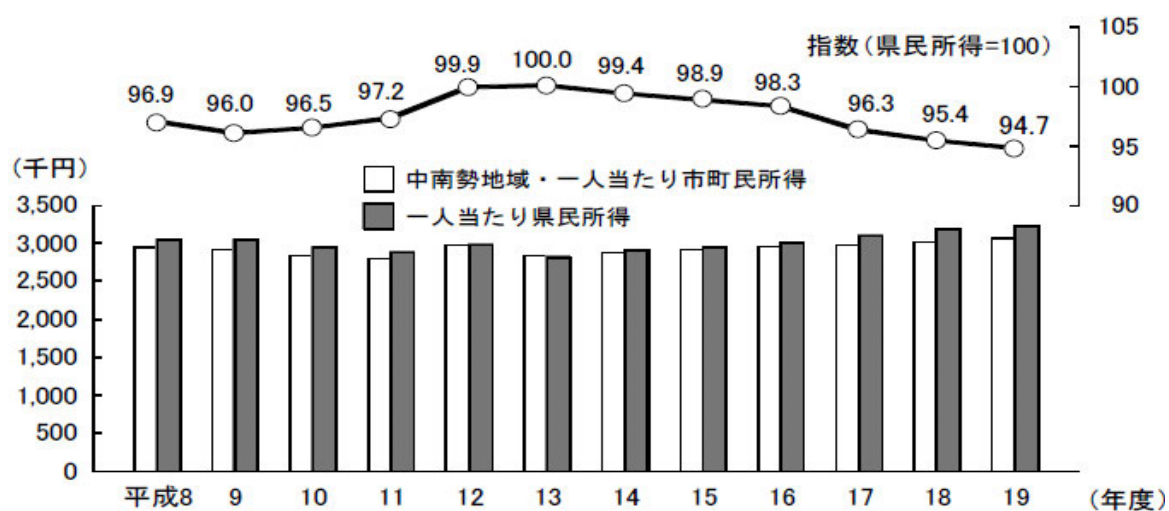


(図4.7 中南勢地域の項目別市町民所得と労働分配率) 資料：政策部「市町民経済計算」

中南勢地域における平成19年度の市町民所得は1兆5,521億円(対前年度比1.1%増)で、対前年度増加率は6年連続のプラスとなりました。項目別にみると、雇用者報酬が同0.1%増、財産所得が同1.5%増、企業所得が同3.3%増でした。労働分配率は66.9%となり、前年度に比べ0.6ポイントの低下となりました。

### 【増加傾向にある一人当たり市町民所得（分配）】

中南勢地域における一人当たり市町民所得



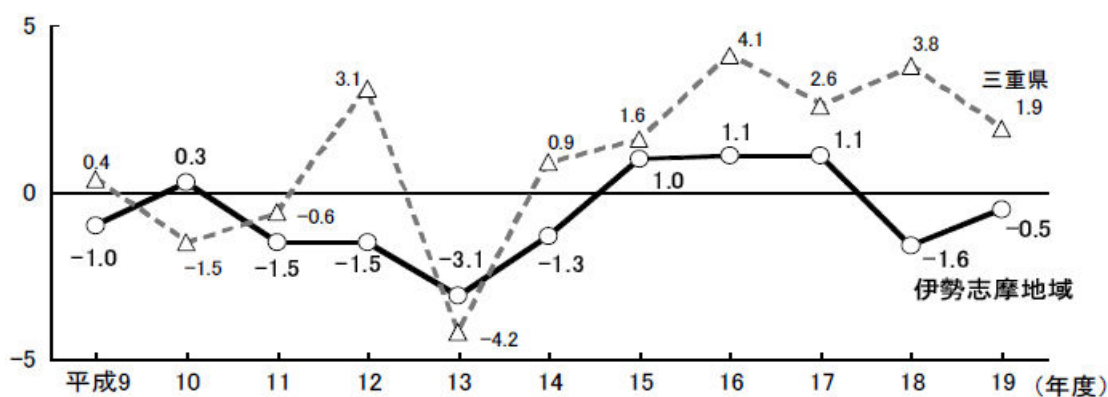
(図4.8 中南勢地域の一人当たり市町民所得) 資料：政策部「市町民経済計算」

中南勢地域における平成19年度の一人当たり市町民所得は3,057千円(対前年度比1.0%増)で、県民所得(3,229千円)を100とした水準は94.7となりました。

#### 4. 伊勢志摩地域の概況

##### 【下降基調にある地域経済】

(%) 伊勢志摩地域内総生産 対前年度増減率



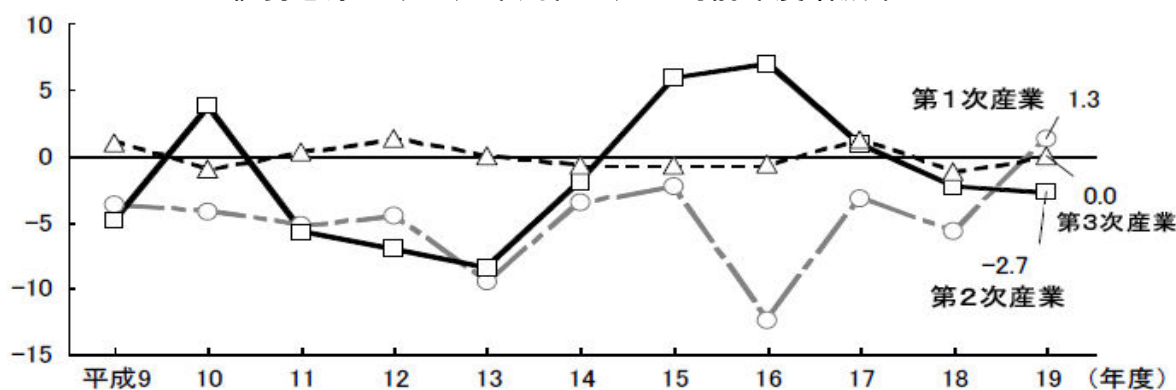
(図49 伊勢志摩地域の総生産増減率)

資料：政策部「市町民経済計算」

伊勢志摩地域における平成19年度の地域内総生産額は8,916億円(対前年度比0.5%減)となり、対前年度増減率は2年連続でマイナスとなりました。

##### 【プラスに転じる第1次産業】

(%) 伊勢志摩地域内産業別総生産 対前年度増減率



(図50 伊勢志摩地域の産業別総生産の増減率)

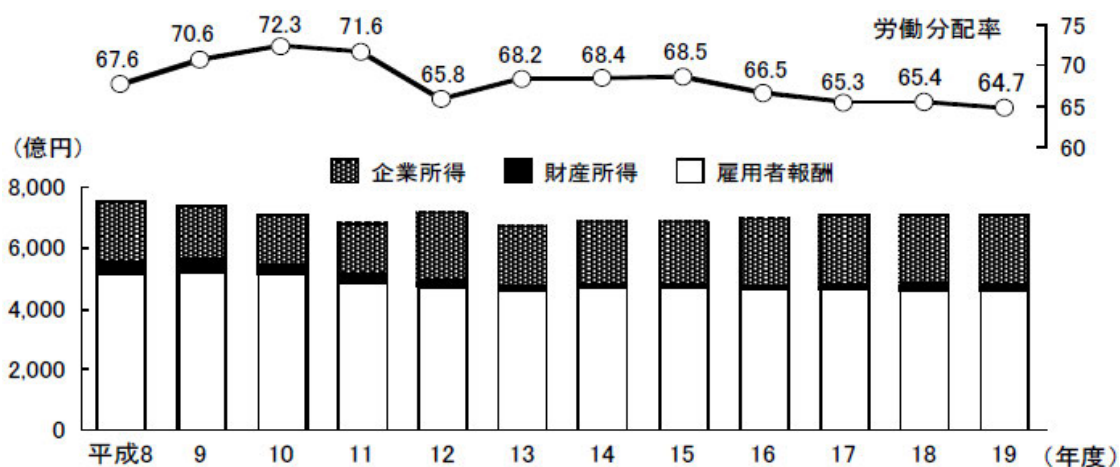
資料：政策部「市町民経済計算」

伊勢志摩地域における平成19年度の産業別総生産の増減率をみると、第1次産業が対前年度比1.3%増、第2次産業が同2.7%減、第3次産業が同0.0%増となりました。

第1次産業では、農業が4.0%減、林業が19.5%減、水産業が7.1%増となりました。第2次産業では、鉱業が18.7%増、建設業が6.9%増となったものの、ウェイトの大きい製造業が5.4%減となりました。第3次産業では、電気・ガス・水道業が4.3%減、卸・小売業が0.0%減、金融・保険業が3.2%減、不動産業が0.2%減、運輸・通信業が2.1%減、サービス業が0.2%減などとなりました。

### 【2年ぶりにプラスとなった市町民所得（分配）】

#### 伊勢志摩地域における項目別市町民所得と労働分配率



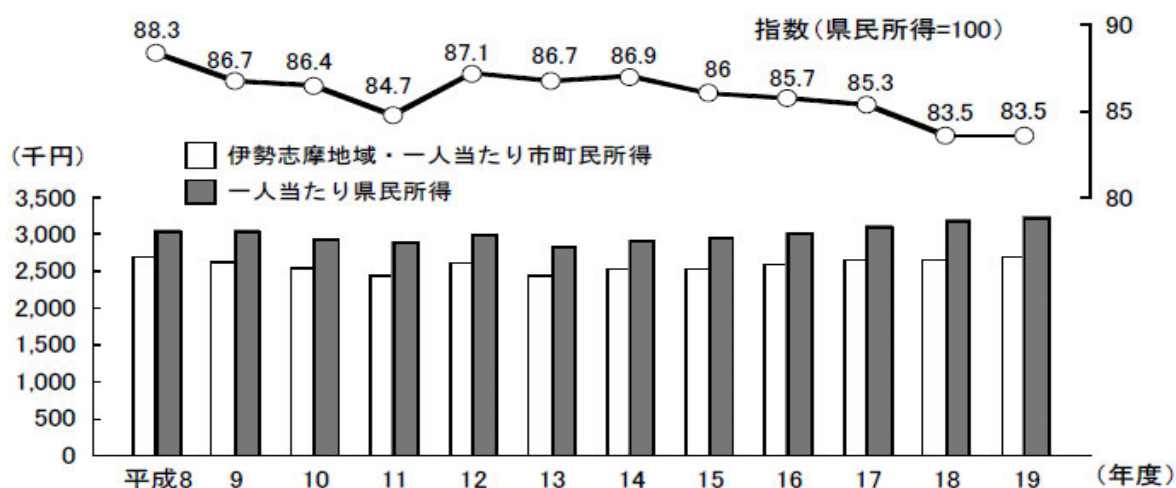
(図5-1 伊勢志摩地域の項目別市町民所得と労働分配率) 資料：政策部「市町民経済計算」

伊勢志摩地域における平成19年度の市町民所得は7,091億円(対前年度比0.8%増)となり、対前年度増加率は2年ぶりにプラスとなりました。項目別にみると、雇用者報酬が対前年度比0.4%減、財産所得が同0.8%増、企業所得が同3.4%増でした。

労働分配率は64.7%となり、前年度に比べ0.7ポイントの低下となりました。

### 【増加傾向にある一人当たり市町民所得（分配）】

#### 伊勢志摩地域における一人当たり市町民所得



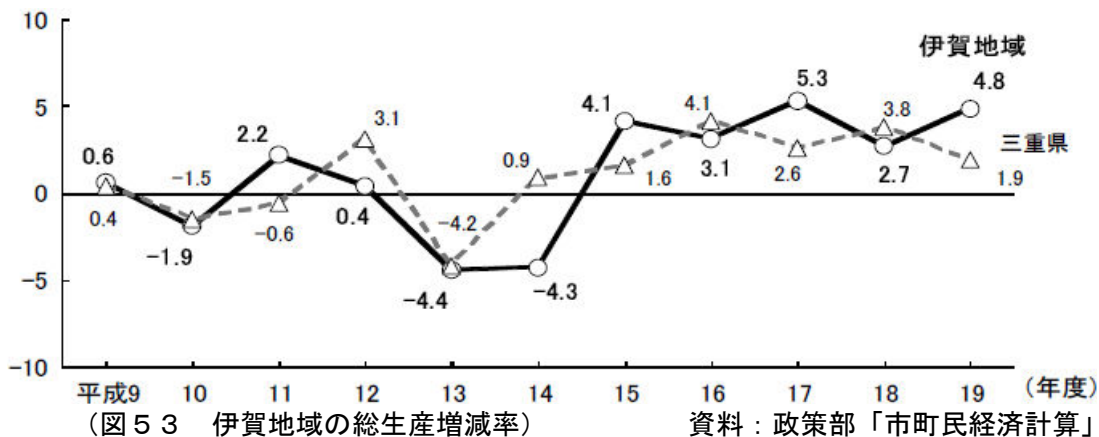
(図5-2 伊勢志摩地域の一人当たり市町民所得) 資料：政策部「市町民経済計算」

伊勢志摩地域における平成19年度の一人当たり市町民所得は、2,695千円(対前年度比1.7%増)で、県民所得(3,229千円)を100とした水準は83.5でした。

## 5. 伊賀地域の概況

### 【成長する地域経済】

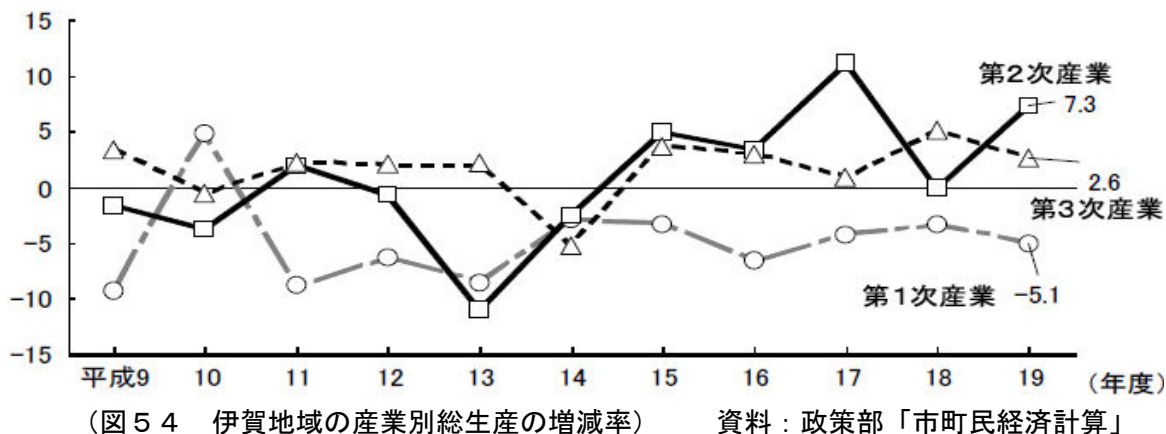
(%) 伊賀地域内総生産 対前年度増減率



伊賀地域における平成19年度の地域内総生産額は7,711億円（対前年度比4.8%増）となり、対前年度増加率は5年連続でプラスとなりました。

### 【第2次産業、第3次産業はプラスの総生産増減率】

(%) 伊賀地域内産業別総生産 対前年度増減率

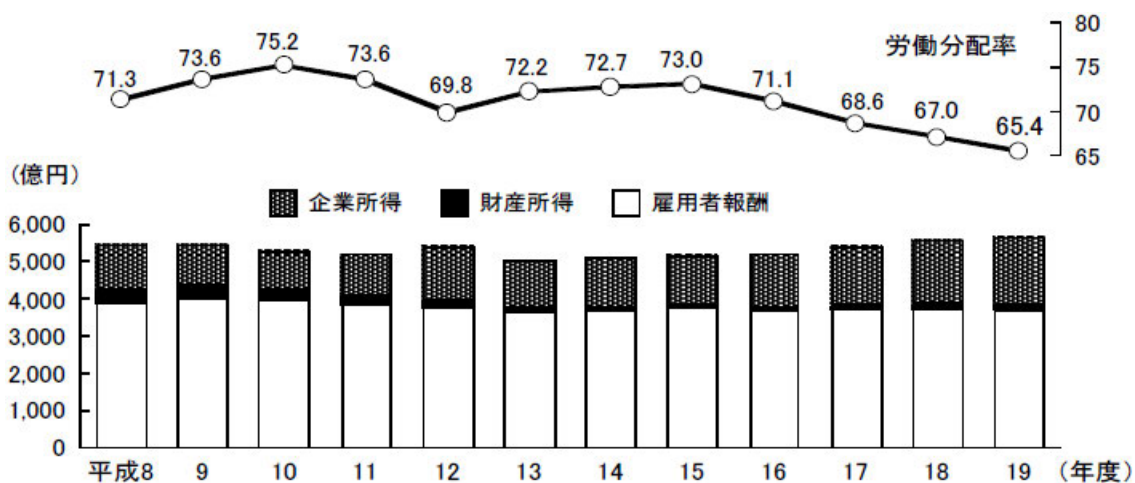


伊賀地域における平成19年度の産業別総生産の増減率は、第1次産業が対前年度比5.1%減、第2次産業が同7.3%増、第3次産業が同2.6%増となりました。

第1次産業では、農業が2.5%減、林業が18.2%減、水産業が100.0%増となりました。第2次産業では、鉱業が16.8%減、建設業が13.8%減となったものの、ウエイトの高い製造業が10.2%増となりました。第3次産業では、電気・ガス・水道業が0.5%減、金融・保険業が4.2%減となったものの、卸売・小売業が1.8%増、不動産業が0.7%増、運輸・通信業が1.1%増、サービス業が8.7%増などとなりました。

【増加傾向にある市町民所得（分配）】

伊賀地域における項目別市町民所得と労働分配率



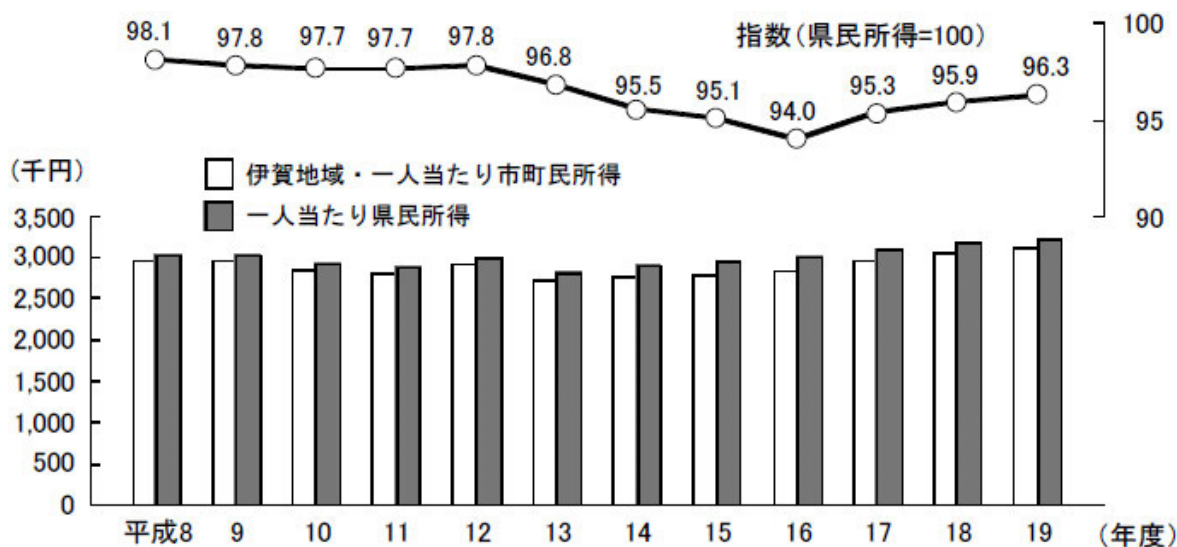
(図55 伊賀地域の項目別市町民所得と労働分配率) 資料：政策部「市町民経済計算」

伊賀地域における平成19年度の市町民所得は5,628億円(対前年度比1.6%増)で、対前年度増加率は6年連続のプラスとなりました。項目別にみると、雇用者報酬が同0.8%減、財産所得が同0.6%増、企業所得が同7.1%増でした。

労働分配率は65.4%となり、前年度と比べ1.6ポイントの低下となりました。

【増加傾向にある一人当たり市町民所得（分配）】

伊賀地域における一人当たり市町民所得

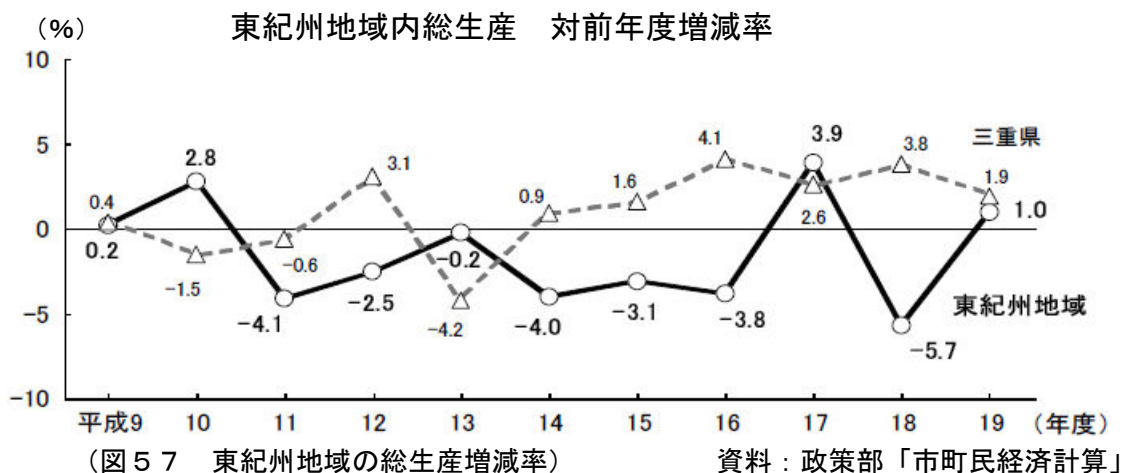


(図56 伊賀地域の一人当たり市町民所得) 資料：政策部「市町民経済計算」

伊賀地域における平成19年度の一人当たり市町民所得は3,109千円(対前年度比2.2%増)で、県民所得(3,229千円)を100とした水準は96.3でした。

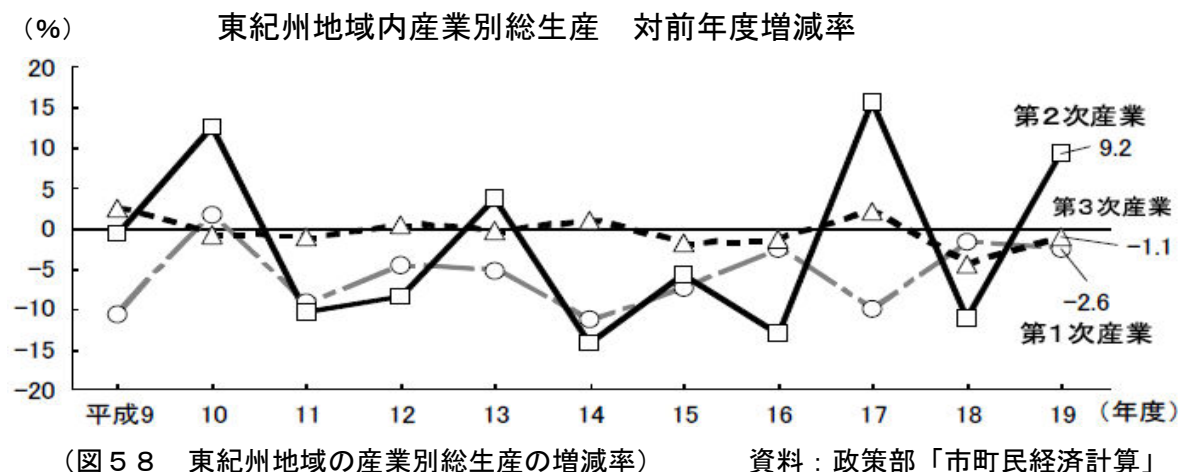
## 6. 東紀州地域の概況

### 【2年ぶりにプラスとなった地域経済】



東紀州地域における平成19年度の地域内総生産額は、2,408億円（対前年度比1.0%増）となり、対前年度増加率は2年ぶりにプラスとなりました。

### 【プラスに転じた第2次産業】

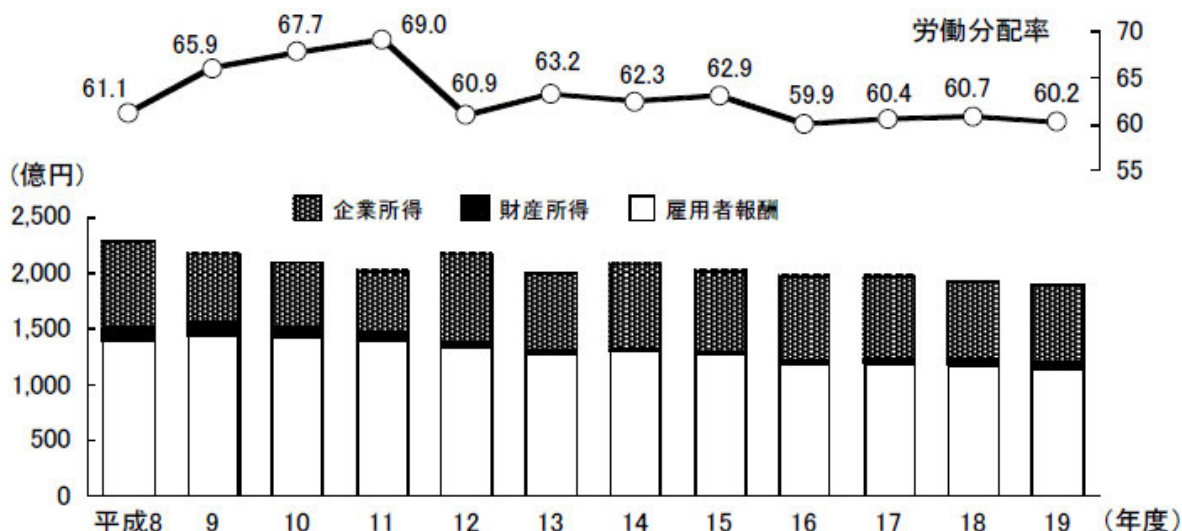


東紀州地域における平成19年度の産業別総生産の増減率は、第1次産業が対前年度比2.6%減、第2次産業が同9.2%増、第3次産業が同1.1%減となりました。

第1次産業では、農業が3.7%減、林業が15.9%減、水産業が5.6%増となりました。第2次産業では、鉱業が72.4%増、ウェイトの大きい製造業が9.0%増、建設業が7.0%増となりました。第3次産業では、不動産業が0.3%増、運輸・通信業が0.5%増となったものの、電気・ガス・水道業が7.6%減、卸売・小売業が0.1%減、金融・保険業が4.7%減、サービス業が0.8%減などとなりました。

### 【低迷する市町民所得（分配）】

#### 東紀州地域における項目別市町民所得と労働分配率



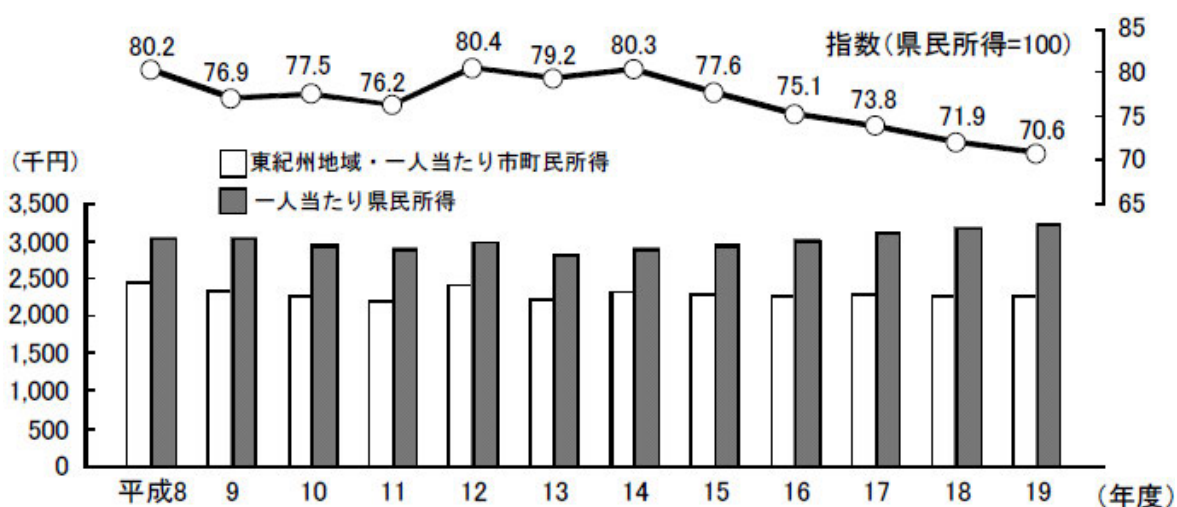
(図59 東紀州地域の項目別市町民所得と労働分配率) 資料：政策部「市町民経済計算」

東紀州地域における平成19年度の市町民所得は1,893億円（対前年度比1.7%減）で、対前年度増加率は2年連続のマイナスとなりました。項目別にみると、雇用者報酬が同2.5%減、財産所得が同2.2%減、企業所得が同0.5%減でした。

労働分配率は60.2%となり、前年度に比べ0.5ポイント低下となりました。

### 【伸び悩む一人当たり市町民所得（分配）】

#### 東紀州地域における一人当たり市町民所得



(図60 東紀州地域の一人当たり市町民所得) 資料：政策部「市町民経済計算」

東紀州地域における平成19年度の一人当たり市町民所得は2,281千円（対前年度比0.0%増）で県民所得（3,229千円）を100とした水準は70.6でした。